

留学先国名 : イギリス

留学先学校名 : エクセター大学

留学期間 : 平成 27 年 3 月 30 日 ~ 平成 28 年 1 月 7 日

私は、イギリスのエクセター大学に約 9 カ月間留学しました。初めの 2 カ月半は大学付属の機関のアカデミックイングリッシュコースで主に学問的な英語の勉強をしました。学問に使われる英語は、日常生活で使われる英語とは全く違い、表現や語彙などについてもより文語的なので今後の英語での勉強の基礎として役に立ったと思っています。

次の 2 カ月半はプレセッションコースで、9 月から正規の学生（多数が大学院に進む学生）となる留学生達とともにイギリスの大学で勉強するための技術（エッセイの書き方、プレゼンテーション、講義の受け方など）を身に付けました。例えば英国におけるエッセイでは学問機関での剽窃に対する観点がかなり厳しくて、引用や参考文献の使い方、著者の表現の言い換えの仕方などを入念に勉強しました。イギリスの学部制の勉学では自主学習が主になってくるため、膨大な量の本や文献を短期間で読むことが求められます。そのため、速読に関するテクニックや、学部の講義では講師は生徒がノートをとることを考慮して授業を行わないため、ノートの取り方のテクニックを利用することも必要となってきます。そのための練習などもこのコースで行いました。このコースで身につけたことは 9 月からの学部の勉強だけでなく、自分の英語力を大きく伸ばす材料となってくれたと確信しています。

9 月からは実際に学部の授業に入って正規の学生と同じように政治学（主に国際関係学）を学びました。それと同時にヨーロッパ各国から来た留学生とともにインセッションコースも受講し学問英語をさらに勉強しました。国際関係学の一つのモジュールには、講義とセミナー（ディスカッション形式で行われる）がセットとなっていて、講義を受けたトピックに対して自身で行う調査やリーディングで理解を深め、同じ週にセミナーを受けるという形式でした。現地の学生は予備知識が豊富にあり、政治や国際情勢に対する自分の考えをしっかりと持っていてそれをまた論理的に述べるので、圧倒されることも多くついでいくのにも必死でしたが、意識の高い生徒たちに囲まれて自分の勉学の励みにもなりました。英語コースのヨーロッパの留学生たちも皆英語だけでなく学問のレベルも高く、多くの刺激をもらいました。また同じ留学生として共感し合えることも多く、彼らと一緒にすばらしい時間を過ごしました。本当の意味での国際交流ができたのではないかと思います。

英国に滞在している間に、英国ならではの様々な課題を目の当たりにしてきました。例えば、移民の数がすごく多い社会の中で排斥運動、宗教問題や差別、高失業率、収入格差、高額な住宅ローン、家庭問題（離婚、子供の高等教育、男女分業など）、ジェンダー（ゲイ、レズビアンに対する見方など）、アルコールが社会に与える影響の大きさ。EU にあることで周りの国から直に受ける影響も大きく、日本とはまた違った様に国際情勢が国を大きく左右していることにも気づきました。11月にパリで起きたテロに対する民衆の声や政府の対応を見ても特にそれを実感しました。そしてイギリスの世界の見方は日本の

ものとはまた違っているのだらうと感じました。そしてそれらの問題を、国際関係学を学ぶことを通して論理的に分析したり、今の時世に最重要な問題を勉強することができて、とても貴重で有意義な時間を過ごすことができたと心から思っています。日本には実感できない問題を肌で感じることができました。島国であり、欧米諸国からも紛争の多い中東やアフリカの地域からも遠い日本で、これらの問題をまた自分の問題として考えられる人は少ないと思うし、日本人で自分と同じような体験ができていた学生もそんなに多くないと思います。自分はこの体験を生かしてこれからの自分が世界に対して何をしていけるかを考え、また日本で世界へ視野を広げる若者が増えるように留学に関するアドバイスなどをしていけたらいいなと思っています。

自分の経験を振り返り、留学中のアドバイスについては、以下にいくつかの点にまとめました。

- ・同じ国籍同士でかたまりない（中国人はその傾向にあったと感じたが）。積極的に外国人の友達を作りたくさん時間を一緒に過ごすことで自分の英語能力を高められる。現地人にこだわりすぎる人もいるが、外国人と一緒にいけば自然と英語を話す環境になるので国籍にこだわりすぎる必要はないと思う。リスニングは自分でも上達できるがスピーキングはなかなか難しいためである。そして同国籍だけでかたまってその国の言語を話すことはネイティブの人にとっては無礼だと感じることもあるそうなので配慮は必要。（私もバス停で地域のおじさんに注意されたことがある。自分たちは英語を理解できるのにネイティブには私たちの言語がわからないのでたとえ悪口を言われていても理解できない、と不公平に思うらしい。特に今はISISが脅威をふるっている時世だから人々は移民や外国人により敏感になっているらしい）もちろんクラス内で私言語をはなすこともNG。

- ・イギリスのビジネスでは基本的に手続きが遅いのでなるべく余裕をもって。交通機関も時間が正確ではないし本数も少ない。ビジネスは基本的に自分の仕事しかしないのでやってもらえるまで何度もお願いしたり自分なんとかしたりすることが重要。

- ・イギリスでは家賃がかなり高いのもあって滞在先を決めるのに苦労することが多いと思う。フラットシェアの場合は他国の留学生との文化の違いや日本人ほど夜中でも騒音に対する配慮が少なかったり共用スペースのキッチンやバスルームを清潔に保たなかったりすることもある。ホームステイではお金を稼ぐためだけにホストをしている家庭も多数あるので想像と異なる場合も多々あり、滞在先は自分の求める条件の優先順位に応じて慎重に選ぶべきである。

- ・留学の達成目標を言語の上達（特にスピーキングスキル）におくと、到達度の指標があいまいであるため（具体的な検定のスコアなどを設定しない限り）、自分が成長しているのか不安になることが多い。そのため、英語を何か別のものを勉強したり達成したりするための手段にすれば（私の場合は学部での国際関係学の勉強）、自然とその段階までの英語能力に近づいていることが多い。なので何か言語のみとは別の目標を設定することをおすすめする。

- ・何事にも恐れずに自分からいろいろなものに関わっていくことが大事。私は初めのコースの時期はなかなか現地の人と触れ合う機会が少なく、英語の上達に物足りなさを感じたため、地域の教会に赴き自分から知り合いの輪を広げたり、留学生を歓迎する地域の団体主催のイベントに毎週足を運んだりしていた。学部での授業が始まってからは大学のクラブ・サークル類や課外活動も盛んな時期に入ったので新入生歓迎の週を利用して多くのサークルに足を運んだ。たくさんの人と知り合えるし、イギリスには正規の学生で

も外国から来ている人もかなり多いので自分が外国人として見られることが少ないことに気づく。つまりそういった生徒たちは英語が話せて当たり前と見られるので自分にも英語が母国語ではないというハンディキャップが与えられていることが少ないように感じる。それをポジティブにとらえて自分が日本人であることを忘れていろいろなことに挑戦するべきである。

・道を歩いているとたまに中国人と間違えられて中国語でからかってきたりする軽薄な地元の若者もたまにいますが、単に中国人の割合が多すぎるだけだからと気にしないほうがよい。

最後に、多額のご支援をいただき本当にありがとうございました。おかげで、イギリスでかけがえのない時間を過ごすことができました。この経験を活かし、社会に少なからず貢献していきたいと思います。この場をお借りして御礼の言葉とさせていただきます。